

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成23年5月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

物価で知る私たちの暮らし

○ 小売物価統計調査をご存知ですか？

消費生活において重要な商品の小売価格、サービスの料金及び家賃を毎月調査しています。

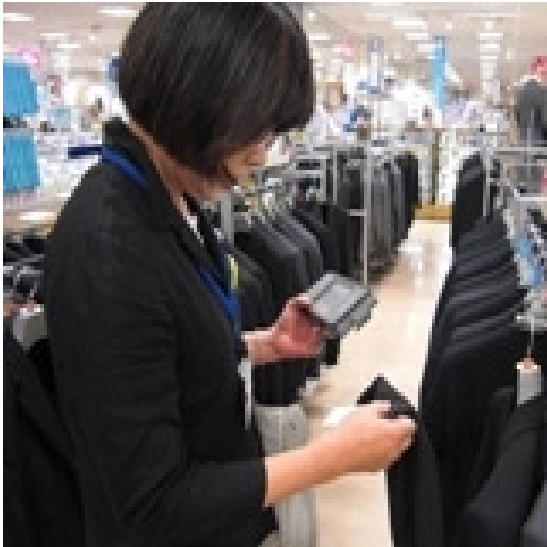
熊本県内の調査対象は約300店舗(事業所)及び約550世帯(家賃調査)で、熊本市、八代市、人吉市等で実施しており、熊本市の小売価格調査は525品目、740銘柄を調査しています。

調査は、調査区の所在する市町村から推薦を受けて、知事が任命した調査員が、調査対象(店舗・事業所、調査世帯)を訪問し、実施しています。

○ 調査員さんのお一人、楠本薫さんの調査に同行し、話を伺いました。

Q 現在行われている主な調査は？

A 価格調査では、毎月1回対象店舗を訪問し、調査品目・銘柄ごとに、商品を手にとり、担当者の方から聞き取りを行ったりして、その内容を携帯情報端末(Personal Digital Assistant 略称:PDA)を使って、調査日における価格・料金等を入力して、報告しています。私は、毎月70品目を担当しています。



Q 調査の際に心がけておられることは？

A 調査対象の店舗から信頼していただくことを大切にしています。まず、第一に売り場の邪魔にならないように、忙しい時間帯やセール期間中を外すなど、お店の状況を考慮しながら調査を行っています。

Q 調査でのご苦労は？

A 品目によって銘柄が指定されていますが、例えば洋服では、夏物、表地毛100%、A体型、中級品等です。素材の内容は同じであっても中級品扱いなのか迷うことがあります。最近の洋服は、見た目だけでは分からないので、その判断が難しいところがあります。

そして、時には、商品の裏側やタグ等を見ながらPDAを操作していると、「何をしているの？」って聞かれることもありますね。

Q 調査対象の方に一言メッセージをいただけませんか？

A いつもお世話になっております。

長く調査員を務めていることもあり、いつも皆さん快く対応して下さいます。

店舗のご協力があってこそ、この調査は成り立っております。今後ともよろしくお願ひします。

○ 調査の結果により、多くのことがわかります。

調査の結果は、調査を行った翌月の末には公表されており、月々の価格の変化を明らかにするほか、物価水準の変動を測定するため、消費者物価指数(現在は、平成17年=100)を作成し、消費生活に関する経済施策や賃金・年金算出の基礎資料等として、利用されています。

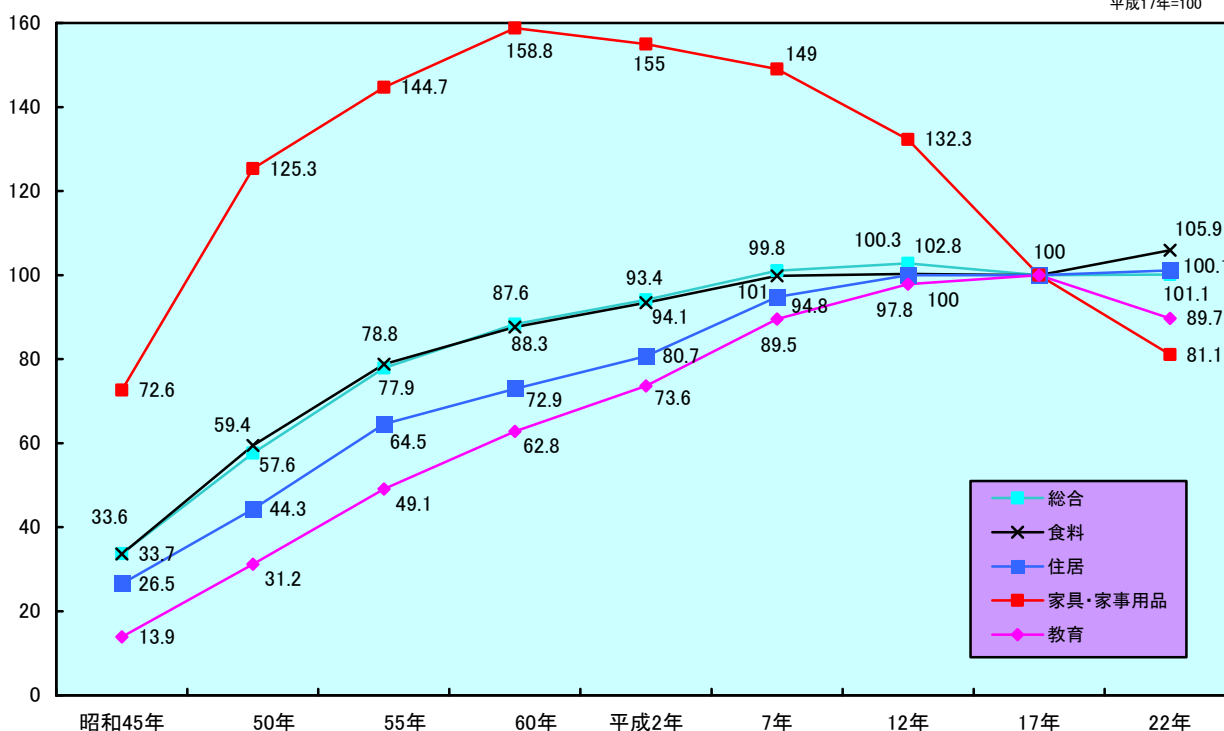
今回は、約40年前の昭和45年から5年毎に、熊本市の消費者物価指数の推移をご紹介します。

「総合」では、昭和45年から平成12年まで上昇し、その後は、100前後で推移しています。

昭和45年(指数33.7)と平成22年(指数100.1)を比べると、約2.97倍となっています。

熊本市の消費者物価指数
昭和45年からの推移(5年ごと)
(総合、食料、住居、家具・家事用品、教育)

平成17年=100



費目別に見ると、上昇率及び上昇・下落時期等に違いがあります。

「教育(授業料、参考書、学習塾月謝等)」は、昭和45年(指数13.9)と平成22年(指数89.7)を比べると、約6.45倍となっています。ちなみに、平成17年(指数100)に比べると平成22年は大きく減少しています。これは、いわゆる「高校授業料無償化」の実施によるものと考えられます。

「住居(家賃)」は、昭和45年(指数26.5)と平成22年(指数101.1)を比べると、約3.82倍となっています。

「家具・家事用品(電化製品、寝具、台所用品等)」は、昭和45年(指数72.6)と平成22年(指数81.1)を比べると、約1.12倍となっており、上昇率が小さくなっています。また、昭和60年(指数158.8)をピークに大幅に下落しています。

熊本県の統計情報は「 <http://www.pref.kumamoto.jp/site/statistics/> 」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、6月24日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部統計調査課 総務資料班 〒869-8570 熊本市水前寺 6-18-1

熊本県の統計情報は「 <http://www.pref.kumamoto.jp/site/statistics/> 」をご覧ください。